

## 令和元年度 第1回 一宮市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録 (要旨)

日 時：令和元年8月8日(木) 午後2時～3時30分

会 場：一宮市役所 本庁舎14階 大会議室

出席者：委員20人、出席した市職員20人 ※欠席委員0人

傍聴者：0人

### 1・開会

委員交代の報告（前回の会議から8人の委員が変更）、部長あいさつ

### 2・資料の確認

一部委員の所属に変更があったため、委員名簿を差替え

### 3・傍聴者の報告

### 4・議事

#### (1)一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

##### ■事務局から概要説明

- ・【資料1-1】「まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業の進捗状況等」を基に、総合戦略の進捗状況と主な事業の取組状況を報告した。
- ・【資料1-2】「国の交付金等を活用した事業」を基に、交付金を受けて「尾州テキスタイル産業のブランド化」に関する11事業を実施したことを報告した。

##### ■【資料1-1】まち・ひと・しごと創生総合戦略で取り組む事業の進捗状況についての委員の意見等

- ・資料1-1 p14「④にぎわいを創出する中心市街地の活性化」「一宮駅周辺の土地の高度利用によるにぎわいの創出」の容積率の緩和は、非常に意義があると思うが、項目の進捗状況は「C」となっており、「中心市街地の活性化」は実際には進んでいないということになる。容積率の緩和の他にも、もっとやるべきことがあるのではないか。この事業しかないのは残念に思う。
- ・他市町でも「出会いの場の提供」をしているが、男性の年齢制限が45歳などと低いことが多い。日々仕事に追われて余裕がないので結婚できていない男性もいるし、50代でも結婚願望がある人もいる。寿命も延びているので、昔と同じ年齢で考えるのではなく、もう少し年齢制限を上げてほしい。カップルが誕生しないと子どもが生まれないので、出会いのチャンスは広げるべきだと思う。

##### ▼事務局（政策課）

- ・「恋づくり出会い支援事業」は青少年育成課で行っており、ある程度の成果は出ている。ご意見は今後の参考にさせていただく。
- ・基本目標1は、進捗度合が「C」となっており、効果は十分に発現していないことになるが、現場の実感としてはどう思っているのか聞きたい。

#### ▼事務局（政策課）

- ・ある程度の年齢になっても結婚しない方や、子どもがいない方が多いという実感はあるが、子どもを3人、4人産んでいる方も見受けられる。合計特殊出生率が上がっている市町村もあるので、良い事例を参考にしながら取り組んでいきたい。
- ・交付金はいくらもらって、どのように配分したのか。

#### ▼事務局（政策課）

- ・地方創生推進交付金は、総合戦略の事業の全体に対してもらえるのではなく、申請し、認められた事業に対し交付を受けられる。一宮市では、現在、資料1-2の「尾州テキスタイル産業のブランド化」の事業費の半額を交付金としてもらっている。
- ・市は常々、スピード感を重視していると明言しているが、令和元年初日の婚姻届の受付は、一宮市が最初に取り組むと公表し、素早い対応で大変良かった。また、小中学校への空調設置は、一宮市より財力のある三河よりも早く取り組んでおり、良いことだと思う。一方、最近、岐阜市が敬老会の対象年齢を「80歳以上」としたが、一宮市の対象年齢は、現在75歳である。寿命が延びているので、敬老会の対象年齢もそれに則して上げて良いのではないかと。敬老会にも費用がかかるので、その分のお金をこれからの日本を背負う子ども達に回してほしい。何事も早く取り入れることが重要だと思う。
- ・今年度から「移住促進支援事業」を開始したとのことだが、なぜ、関東からの移住者に限り支援するのか。関西からの移住者への支援も行っても良いのではないかと。

#### ▼事務局（政策課）

- ・現行の国の総合戦略の平成30年度の方針の中で、「東京一極集中の解消」のための国の新たな施策として「移住促進支援」が示され、県・市はこれを受けて事業を行っている。このため、関東からの移住者にのみ支援金の支給を行うこととしている。
- ・資料1-1 p14「④にぎわいを創出する中心市街地の活性化」として、都市計画マスタープランを改定し、駅周辺の容積率を400%から600%に緩和するという大変大きな決断をした。実施からあまり期間が経過していないので、実績として表れていないと思うが、この取組に対し、開発業者はどういう受け取り方をしているのか。また、それに対し市はどのように評価しているのか聞きたい。

#### ▼事務局（都市計画課）

- ・容積率の緩和に対しては、高い建物が建てやすいという声を業者からいただいている。また、地価も上がっているため、社会的にも評価されていると考えている。
- ・平成30年10月の容積率の緩和と同時に、小さな敷地をいくつか合わせ、大きな建物を建てた場合に補助金を出す、「優良建築物等整備事業」という制度の案を取りまとめた。この制度に対しても、いくつかの開発業者から問い合わせが来ている状況である。
- ・容積率600%では採算が取れないと考えている開発業者もいるようである。今後も業界の意見も十分に聞きながら、引き続き効果が出るように検討していただきたい。

#### ▼事務局（都市計画課）

- ・600%というのは、愛知県のガイドラインに則っており、これ以上は上げられない

最大限の数値である。今後とも効果が出るようにPRを行っていきたい。

- ・駅周辺の地域には、最近、東京近辺の開発業者が来ている。駐車場を撤去して、高層分譲マンションを建てるというような話もある。業者が言うには「東京は投資の割に利益が少ないので、もう魅力がない。その点一宮市は魅力的だ」とのことであった。
- ・今回の報告は総花的であり、すべて「○」という結論に近づけている印象を受ける。行政の個別の現場の職員は、本当に一生懸命取り組んでいるが、各現場の職員は総合戦略の取組に対し、どう感じているのか感想を聞きたいと思う。「地方創生」という命題を一宮市にブレイクダウンするにあたり、どうすべきなのか良く考えてほしい。
- ・例えば、今回、数値目標指標とKPIの数値が大きくずれているが、元々適さない数値目標、KPIだったのではないか。そういうことを再度、各現場で検証し、本当に必要なKPIを検討していくべきだと思う。また、先ほど交付金の話があったが、いくら金額を国から受けて何をクリアしたのかといったことも報告があっても良い気がする。
- ・PDCAサイクルで言うと、今はチェックの段階にあり、なぜ「C」あるいは「B」になったのかを把握して、次に反映しなければならない。分析は十分にできていると言えるのか。現場の苦労は次の計画に活かされているのか不安に思う。各現場の感触が大切だと思うので、是非、持ち帰って検討してもらいたい。

■【資料1－2】国の交付金等を活用した事業についての委員の意見等：なし

▽座長

- ・この会議としては、これらの対象事業の実施がKPIの達成に有効であったという意見としたい。

▼事業担当課の職員、退席

(2) 次期総合戦略について

■事務局から概要説明【資料2－1～2－4】

- ・国の基本方針2019（概要）、一宮市の人口の現状を説明し、市の次期総合戦略の策定方針・スケジュール、市の次期総合戦略の基本目標等についての事務局案を報告した。

■委員の意見等

- ・現行の総合戦略基本目標2の「市内への定住・移住の促進」は、次期総合戦略では、「戦略的な情報発信と移住・定住促進」としているが、どのような展開を考えているのか。
- ・国の新たな視点として挙げられている「関係人口」は耳慣れない言葉だが、「定住までは至らないが、例えばふるさと納税をしてくれる方など、地域の発展に深く関わってくれる人」を指すということであった。将来的に一宮市に移住してくれる方を増やしていこう、という発想であると思うが、定義があいまいであり、若干、国も腰が引けている印象を受ける。今回の市の第2期総合戦略の「移住定住の促進」の項目には、「関係人口」が挙げられていないが、市としては、あまり関係人口の獲得を意識していないのか、考えを聞きたい。

#### ▼事務局（政策課）

- ・ 現行の総合戦略の基本目標2「市内への定住・移住の促進」と、基本目標3「シティプロモーションの推進」の項目を織り交ぜ、次期総合戦略では「戦略的な情報発信と移住・定住の促進」という項目とした。昨年度、一宮市への定住を促進するためのPR動画を作成したが、今後、どのような発信を行うと効果的か検討中である。
- ・ 関係人口は、「将来的に一宮市に住んでくれるようなファンづくり」ということだと思うが、庁内の推進本部でも、市としてどう取り扱うべきか議論があった。次期総合戦略に「関係人口」の視点を入れたいという訳ではなく、全体の中の最適な所で取り入れていく考えでいる。
- ・ 関係人口については、非常に捉えにくいという印象を持っており、概念を必ず入れた方が良く思っている訳ではない。あまり範囲を広げ過ぎてしまうのも、その後のイメージがしづらと思う。
- ・ 行政で一番大切なのはスピード感だと思う。シティプロモーションにおいても、チャンスを的確に捉えていくことが重要で、ありきたりなことをやっても、市の知名度は上がらない。次期総合戦略の方針案には新しいことに取り組んでいこう、上を求めていこうという「チャレンジ精神」があまり感じられない気がするので、その辺りを盛り込んでいってほしい。
- ・ 皆さん多忙のため難しかったとは思いますが、現行の総合戦略の振り返りと次期総合戦略の方針案の検討は、2回に分けてじっくり議論したかった。委員の中にも、現行の総合戦略の中で、もっとこういうことをしたかったのに、できなかったという思いがある人もいます。その思いを踏まえながら、新たな総合戦略の策定に臨んでいきたいと思う。
- ・ 基本目標4「しごとを創る」には、創業支援もあると思うが、高齢の毛織物業者が廃業する等のもったいない話もあるので、事業承継などにも注目すると、より働く場の確保ができると思う。
- ・ 他県の出身の「よそ者」の視点から見ると、一宮市はすばらしいまちだと感じる。インターが多数あり関東にも、関西にもアクセスしやすく、空港にも行きやすい。また、濃尾平野ほど大きな平野はあまりないので「坂がないまち」という点だけでも十分、人に売り込むことができると思う。シティプロモーションを進めていく上では、もう一度、まちの魅力を磨き上げて「売り」にしていくと良いと思う。
- ・ 資料2-2「一宮市の人口の現状」の年齢3区分のグラフを見ると、生産年齢人口の割合が6割程度となっている。基本目標4で、企業誘致や移住者の支援などをしていくとのことではあったが、総務省や愛知県のデータを見ていると、生産年齢人口が「60.0%」で推移するとは思えないので、人口推計の再計算をした方が良いのではないかと。

#### ▼事務局（政策課）

- ・ 「資料2-2」のグラフでは、一宮市の人口ビジョンの独自推計の中の、「令和2年4月」の生産年齢人口割合である「60.0%」を記載しているが、2060年の推計では、「53.5%」まで下がると見込んでいる。途中段階の数値としては、現状、予想どおりと捉えており、人口ビジョンの変更は検討していない。

- ・一宮市は「こども読書のまち宣言」をしており、「ブックスタート」として4か月健診の際に絵本を贈っている。絵本をとおして親子のコミュニケーションを取る、という趣旨の事業だが、ブックスタート事業自体を行っていない市町も多いので、新たに転入したご家族にも喜ばれている。
- ・現在、小中学校ではプログラミング教育などが導入されているが、次期総合戦略の「特色ある教育の実施」という方針が、「スマホ等に頼り過ぎない」というような、従来の一宮市の良いところと両立できるような取り組み方をしてもらいたいと思う。
- ・現在、尾州産業のブランド化で地方創生推進交付金を受けているが、次期総合戦略において、国や県の資金を取りにいくような、具体的な事業の想定などがあったらお聞きしたい。

#### ▼事務局（政策課）

- ・次期総合戦略の基本目標・項目といった「柱」を決定した後、全庁的にヒアリングをしながら、交付金対象の事業を含め、次期総合戦略に位置づける事業を決めていく予定であるため、具体的な事業についてはこれから検討していく。

#### ▽座長

- ・次期総合戦略の基本目標、項目は審議いただいたが、「サブタイトル」も事務局案どおり、「変更なし」ということで良いか。

#### ▽座長

- ・異論もないので、現行の総合戦略のサブタイトルと同じとすることとする。